

ケガの状態や体調の状態による対応

状態がよくわからない場合や対応に迷う場合はすべてすぐに、受診、搬送、または心肺蘇生をするべきである。無理に判断をして、不要な対応やすべきでない対応、時間の浪費をしないこと。

ケガの種類	応急処置、対応
① 擦り傷	<ul style="list-style-type: none"> ・流水で洗浄 ・傷口を清潔なガーゼで覆い、圧迫止血 ・絆創膏または清潔なガーゼで保護 ・湿潤療法の被覆材は2歳以下の乳幼児には使用しない
② 切り傷	<ul style="list-style-type: none"> ・流水で洗浄 ・圧迫止血 ・傷の保護 ・2～3分止血しても血が止まらない時は受診
③ 刺し傷	<ul style="list-style-type: none"> ・傷口を流水で洗い、異物を取り除く ・清潔なガーゼを当てて圧迫止血 ・傷の保護 ・刺さっているものが容易に取れなければ受診
④ 打撲	<ul style="list-style-type: none"> ・傷がある場合は傷の手当 ・打撲した部位を冷やす（水で繰り返し濡らしたタオルで可） ・本人が楽な姿勢で休ませる ・高所からの落下や、頭、顔面、首、胸、背中、腹を打った時、またはどこを打ったかがわからない時は動かさず119通報
⑤ 捻挫	<ul style="list-style-type: none"> ・足首の場合は靴を脱がせる ・痛みのある周辺を冷やす（20～30分。保冷剤等がなければ、水で濡らしたタオルを繰り返し使用で可） ・固定して（捻挫している部位は高くして）安静にしながら受診
⑥ 骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・出血している時は止血 ・患部が動かないよう固定（本人のしている姿勢が最も痛みの少ない姿勢であり、無理に動かして固定しない） ・本人が動けない／動かない時は動かさず119番通報し、全身を保温しながら救急隊を待つ
⑦ 鼻血	<ul style="list-style-type: none"> ・前かがみで座らせ、小鼻の少し上をつまんで圧迫止血（保育者は使い捨て手袋着用） ・冷たい濡れタオル等で鼻を冷やし、しばらく安静 ・15分以上続く時は受診

⑧ 目のケガ	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が目を開けられない時は無理に開けさせない ・目を押さえないように清潔なガーゼ等をまぶたの上から軽く当てる ・眼科医に電話をして状況説明し応急手当の指示を受け、直ちに受診
⑨ 歯のケガ	<ul style="list-style-type: none"> ・歯が取れた場合、水道水で洗わずに歯牙保存液で保存、受診 ・口から出血している場合、清潔なガーゼを噛ませて止血し、急ぎ歯科受診
⑩ かぶれ	<ul style="list-style-type: none"> ・原因物質を水で洗い流す ・かゆみや発赤がある場合、皮膚科を受診
⑪ 虫刺され	<ul style="list-style-type: none"> ・流水でよく洗い、かゆみ止めを塗る ・腫れやかゆみが強い時は受診 ・ハチは毒針が残るため、毒嚢を圧迫しないよう毒針を取り除き受診 ・アナフィラキシー・ショックに注意 ・マダニを見つけた場合、取らずに急ぎ受診 ・ポイズン・リムーバーは効果が明確ではない
⑫ アナフィラキシー・ショック	<ul style="list-style-type: none"> ・寝かせて足を少し上げ、高くする（心臓に血流が行きやすくなるよう） ・寝かせて呼吸が困難な場合は座位（立ち上がらせない） ・内服薬があれば服用させる ・エピペンが処方されている場合、息苦しさなど呼吸症状があれば使用する ・呼びかけに反応がなく普段通りの呼吸がなければただちに心肺蘇生を開始し、119 番通報する ・AED があれば使用する
⑬ 喘息	<ul style="list-style-type: none"> ・横に寝ると苦しい時は上体を起こし、もたれかかる姿勢にする ・水分をこまめに飲ませる ・唇や指先が青っぽい紫色に見える状態（チアノーゼ）は至急受診
⑭ 腹痛	<ul style="list-style-type: none"> ・痛む場所や、どのような痛みを観察する ・便秘の可能性：左下腹部の痛みで、痛くなったり落ち着いたりを繰り返し、排便の無い時。トイレを勧める ・胃腸炎の可能性：腹痛に加えて嘔吐下痢などの症状があり周囲で胃腸炎の発症があれば受診を勧め、医師にもその旨伝える
⑮ 熱傷	<ul style="list-style-type: none"> ・患部に直接水圧をかけないよう 20～30 分、流水で冷やす（服の上から受傷した場合は服の上から冷やす。服を脱がさない） ・低体温になることもあるので患部以外の部位は保温する ・急ぎ受診する。水疱になった時はつぶさないで受診
⑯ 熱中症	<ul style="list-style-type: none"> ・予防のため、外気温が 30 度以上になったら戸外での活動はしない ・体が熱い場合は涼しい場所に移し、体を水で絞ったタオルで拭き、風を当て、119 番通報 ・飲むようであれば水分補給（経口補水液）しながら 119 番通報 ・意識レベルが低下している場合は至急 119 番通報

⑰ 低体温	<ul style="list-style-type: none"> ・ あたたかい衣類や毛布で体を包む ・ 飲めるようならあたたかい飲み物を飲ませる ・ 意識がない場合は至急 119 番通報
⑱ 誤嚥窒息	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強く咳き込んで（むせて）いる時は、咳き込ませる（出そうとしている反射） ・ 咳き込めない、または咳き込みが弱くなったら気道異物除去を開始し、119 番通報 ・ 意識を失った場合、気道異物除去に加え、速やかに心肺蘇生を開始 ・ 開いた状態の口の中に、詰まったものが見えない限り、指を入れて取ろうとしない（奥に押し込んでしまう）
⑲ 溺水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 呼吸をしていない、または呼吸をしているかどうか分からない場合は速やかに心肺蘇生を開始、119 番通報 ・ AED があれば使用 ・ 救急隊に引き継ぐまで心肺蘇生を継続する ・ 水を吐かせようとする（たいてい、肺に水は入っていない）

参考資料

- 『「こどもの病気・けが 救急&ケアBOOK」 秋山千枝子監修
- 『保育のなかの事故』 全国保育園保健師看護師連絡会（編集・発行）
- 『赤十字 幼児安全法講習』 日本赤十字社
- 『今日から役立つ 保育園の保健のしごと』 東社協保育士会保健部会編
- 『子どもの保健演習』 大西文子編著
- 『保育者のための子どもの健康と安全』 鈴木美枝子編著